

献 辞

札幌大学経済学会会長

札幌大学経済学部長

石 坂 昭 雄

本学会会員，経済学部 萬谷迪教授には，今年3月31日をもって，27年の長きにわたって勤務された札幌大学経済学部を定年退職された。ここに会員一同ならびに関係者の，先生の長年の研究・教育・大学行政へのご貢献への感謝の気持ちの一端として，本号を先生の退職記念号として献呈したい。

先生は，北海道ご出身で，道立苫小牧高等学校をご卒業後，1950年，東北大学経済学部に進まれた。そして，卒業後は研究者の道を選ばれ，大学院修士課程から博士課程へと進まれ，経済政策論担当の恩師原田三郎教授の指導のもとで，現代資本主義論，世界経済論を主として研究された。先生は，1962年に同大学院博士課程を単位取得退学され，宮城県立鼎が浦高等学校，同大河原高等学校教諭として勤務されたのち，1965年4月に奥羽大学経済学部講師に迎えられて，経済政策論，現代資本主義論，世界経済論，金融経済論など担当され，助教授，さらに教授に昇任された。

その後先生は，1975年，創立からようやく7年目を迎えたとはいえまだ日の浅い本学に経済学部教授として招聘され，以来様々のご苦勞を重ねられるなかで，学部の重鎮として本学の今日までの発展のために尽くされ，経済政策Bの担当教員として，多くの学生の教育にあたられ，他方学部長，教学評議会委員をはじめ，様々の役職につかれて本学のために貢献された。

先生の長年にわたるご研究は，帝国主義と植民地問題から出発して現代の南北問題におよんでおり，その成果は近く著書としてご出版の予定と伺って

いる。先生は、本経済学会の創立に尽力され、その会長を長く勤められるなど、本学における研究活動を支えられてきたのみならず、本学内外の様々な研究会で大きな役割を果たされ、その広い優れた学問的関心と温厚なお人柄が相俟って本学を越えて多くの研究者とのネットワークを形成してこられた。このたびの定年ご退職は、われわれにはまことに寂しい限りではあるが、幸い先生には、引き続き非常勤講師として本学の教壇に立たれ、またこれからも図書館でご研究を続けられる由である。われわれは先生のご加餐を心よりお祈りするとともに、これからも絶えず本学に足を運ばれて研究室で歓談するなかで、あるいは研究会で議論するおりにも、われわれ後進に学問的刺激を与えていただきたいと念じている。

なお、最後になるが、本記念号を刊行するにあたっては、先生のこれまでの広範な学問的交流を形として残す意味でも、会員のみならず、研究などで関係の深かった多くの学外の諸先生にも寄稿をお願いしたところ、それぞれご多忙のなかにもかかわらず多くの方々が快くお引き受けいただき、先生の退職記念号にふさわしい充実したものとなったことは、われわれにとっても大きな喜びである。ここに厚くお礼申し上げる。